

★被災地等を支援する【JOSOたすけあい基金】は注文番号500253にて毎週受け付けています。ご協力よろしくお願ひ致します。
★関東子ども健康調査支援基金【寄付】 注文番号:500252 1口1000円~ にて毎週受け付けています。ご協力よろしくお願ひ致します。
★東海第二原発差止訴訟基金【寄付】 注文番号:500251 1口500円にて毎週受け付けていますご協力お願ひ致します。
★JOSO脱プラ基金は注文番号:500254 1口500円にて毎週受け付けていますご協力お願ひ致します。

COOP-JOSO News Letter

2021年9月4回号 発行:常総生協広報G



2021年度活動テーマ「笑顔で育む免疫力」

新しい視点でくらしに寄り添う 9月4回より「JOSOわいど」を発行します！

The catalog page features a large image of a dish with rice and vegetables, labeled "彩り豊かなエビピラフ!" (Colorful shrimp pilaf!). To the right, there's a section titled "国産野菜をふんだんにつかいました とろみスープと細麺のハーモニー" (Abundant use of domestic vegetables, rich soup and fine noodles). Other sections include "油で揚げれば、外はカリッ 中はとろーり" (Fried in oil, outside is crispy, inside is soft), "卵で揚げれば、外はカリッ 中はとろーり" (Fried in eggs, outside is crispy, inside is soft), and various meal kit options like "えびピラフ" (Shrimp pilaf) and "えびのマヨソース" (Shrimp mayonnaise sauce). The top right corner shows a preview of the next page with images of salmon and jam.

「JOSOわいど」とは？

コロナ禍で生活が多様化する中で親子3世代、組合員の皆様により多くの商品を利用して欲しいといふ想いを込めて「JOSOわいど」を作りました。兼ねて組合員から「簡便性の高い商品」「なるべく低価格の商品の企画をして欲しい」と要望があり、レンジや湯煎ができるものなど、比較的簡易にご利用いただける商品を掲載しています。

また常総生協にて一定の基準を設け、その基準を満たしたものを掲載しています。また原材料は全て明記していますので、内容を確認いただきご利用をお願いします。

なぜ「JOSOわいど」を発行するの？

「JOSOわいど」については、下記の3つの視点から発行を決定しました。

1. 組合員の声から

※2021年から過去3年の「総代会議資料アンケート」より抜粋しています

- 良い商品だとわかっても、あまり単価の高い物は利用しづらいです。
- 経済的には苦しいのですが、品質が良くおいしいので続けています。
- 組合員のニーズがどこにあるのかを知る努力を徹底してして欲しいです。商品については、アイテム数が圧倒的に少なく、カタログは定番商品だらけ。この点が他の生協併用や一般の小売業併用の理由になっていると思います。多品種の特別注文品をスポットで増やして、ラインナップを充実させバラエティを持たせることはできないでしょうか。
- 商品のアイテム（食材）をもっと広げて欲しい・子どものお菓子を増やして欲しい、中高生の軽食（ホットドッグ、ライスバーガー、ラーメンなど）
- 年齢と共に食材を使い切ることも難しくなっていく中、手作り品よりも加工（レトルトや冷凍）の方が経済的かなと思うようになった。
- 高い理由は納得だけれど、家計を考えると複雑。
- 他人に勧めると大抵は良いけど値段が高いことを問題にされる。
- 今の生産では仕方ないと言えるのか？お金のある方しか買えないことでは「貧乏人は麦を食え」と同じになるのではないか。何とかならないか一緒に考えていきましょう
- 家計を預かる物としてはどうしてもスーパーの価格と比べてしまう。これから生金生活に入ると何かを手放さないといけないのか…

2. 組合員で休会している状況と理由

※2021年4月1日～2021年9月1日現在で休会した理由（計203件）



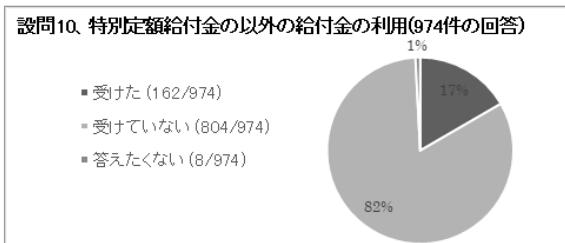
4月から9月1日(現在)までの時点で、203件の休会(退会待ちの休会を含む)がありました。そのうち、体調不良・怪我・入院・死亡などが46件(22.6%)、その次が「商品に魅力がない」が35件(17.3%)にのぼりました。この項目の内訳は「ラインナップが少なく利用・注文したいものがない」「高くて買うものがいる(買えない)」といったものです。

3. 新型コロナウィルスにより所得減の危惧と広がる格差

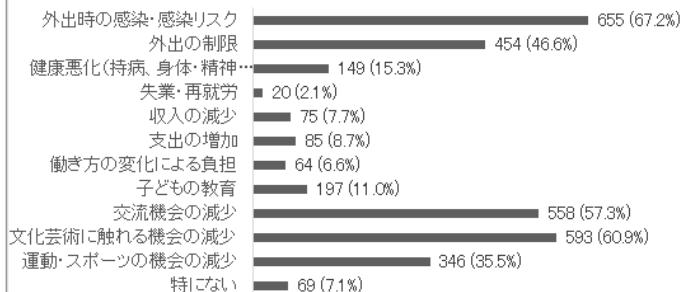
※2021年4月実施 常総生協組合員向け「新型コロナウィルス実態調査」より抜粋

設問9、常総生協で注文する食材変化(回答)

- ・手の込んだものを作る事が増えた一方で、超簡単なカップ麺なども食べることがある
- ・生協に高額商品の割引を期待したい（社会は対応している）
- ・年金生活はドンドンつらい



設問11. 現在の生活で不安や困りごと(974件の回答)



一律10万円の特別定額給付金以外の助成金、給付金の利用が17%（974件回答中、162件）あり、何かしらの経済的負担を受けていることが分かりました。また、コロナ禍における失業や再就労に対する不安や、収入の減少と支出の増加に対する不安、年金生活のつらさを抱えている組合員が一定数います。

以上の3点を「重要な課題」として捉え、生協として、何かできることは無いか？と議論を進めて参りました。

上記「総代会討議資料アンケート」や「休会理由」については、今年初めて発生した課題ではなく、特にここ4～5年で顕著になってきた課題です。安心安全にこだわりがある一方で、経済的にこだわりを貫くのが難しい組合員の心情がわかる回答と考えています。

また生産現場での葛藤、品質保持など様々な面も含め、私たち消費者、常総生協の組合員が求める「安全・安心」とは何か？生産者が提供する、組合員が求める「身体に良い物」とは何か？食の安全が暮らしの安心につながるためには、農薬無散布・化学肥料不使用・無添加食材以外に選択肢は有るのか、生産者・組合員・生協がそれぞれ考え、歩みよることも大事なのではないかと思います。

「JOSOわいど」は今後も一層”多様化”する組合員の暮らしに寄り添う意味と、常総生協のかけがえのない商品を利用したくてもすべてを販賣することが厳しい現実を含めて、対応したカタログになります。

「生協、生産者にお任せ」でなく、一人一人が「食」に向き合うこと（食材の選び方、食の在り方）、それが常総生協の「食はいのち」につながっていくと考えております。

カタログ別紙「JOSOわいど」については、原材料を全て表記します。↓掲載(例)



「JOSOわいど」については、原材料を全て明記します。また、インターネット注文画面でも原材料を表示できるよう現在システムを改修しております。ネット注文画面については、「JOSOわいど」商品だけでなく、カタログ本紙の商品も含め原材料を開示していきます(※インターネット注文画面の原材料表示については、9月13日週～、9月4回の注文回数を目標に進めています)。

「カタログ本紙」、及び別紙「JOSOわいど」の商品選定基準について

商品選定基準については、今週9月4回に丁合しております。また、それぞれの添加物の説明については、別途常総生協ホームページに掲載予定です。商品選定基準についてはこれを「初版」とし、適宜見直し、更新を図っていきます。

理念を追求するのは「カタログ本紙」

ここまで「JOSOわいど」の発行に至るまでの経緯を説明しましたが、カタログ本紙は従来通り1～16ページで発行します。今後はJOSOわいどを作成することで商品数を増やし、且つ本紙に余裕を持たせ生産者のこだわりや商品ストーリーを一層強く伝える紙面作りをおこなっていきます。生協オリジナル商品、生産者同士の“つながり”から生まれる商品、地場産での農薬無散布・化学肥料不使用の大豆を生産する「大豆プロジェクト」など、常総生協ならでは農産物・商品を掲載していくので引き続きよろしくお願いします。生協、生産者、組合員の3者で「食選力」を磨いていきましょう！



～終戦の日に寄せて～今だから、読んでほしい「戦争体験」 Part.5



7人目 江口昌子さん

1935年東京生まれ。
1938年から終戦後まで満州で過ごす。1946年帰国。
元、小・中学校の教諭。
「歴史教育者協議会」会員。
1985年からつくば市在住。
常総生協組合員。

【父の赴任先は 関東軍】

父はハルビン学院※でロシア語、中国語を学び、上海領事館で通訳官として働いていた。1938年に満州国ハイラルの関東軍へ赴任。母と兄弟（昌子さん含め6人兄弟）の一家はハイラルへ移り住んだ。ハイラルは山に囲まれた草原の盆地で、軍事基地が拡大中だった。一家の生活は恵まれていたが、街中にビリビリした雰囲気が漂っていた。

※ハルビン学院は杉原千畝さんなどを輩出した旧制専門学校

【間近に軍がある生活】

通っていた日本人小学校はとてもきれいで、冬になると軍が校庭に氷を張ってスケートリンクを作った（スケートは得意になった）。すぐ近くにあった現地住民の小学校は汚くて貧しい学校だった。現地の子どもはわずかしか学校へ行ていなかつた。日本人学校のクラスに2人くらい韓国人がいたが、日本人の子どもたちは彼らをひどく下に見ていた。

街には運輸会社、食べ物や、スーパー、キャバレー、料理屋などがあり、キャバレー、料理屋などは売春宿を兼ねていたところもあった。

ある朝、家の応接間で若い中国人青年がワーウーと泣いていることがあった。キャバレーで「ぼや」があり、見せしめに（拷問）するため周囲の人たちが犯人に仕立てた青年だった。青年は山東半島の出身の労働者だった。父がかけあって、警察から取り戻してきたところだった。

ノモンハン事件のあと、有名な辻政信参謀などの代わりに責任を負わされ自決した将校がいた。その遺骨を、内地から若く美しい奥さんが受け取りに来られた悲しみの姿は、つらくて見ていられなかった。

【戦争は歌を通して】

あらゆる教育の場で戦争、戦地、人物が歌になった。今でも歌える（覚えている）ほど、軍歌は子どもたちに浸透していく。

【結びに】

学校では「教育勅語」を中心としたあらゆる形式的な軍国主義教育が行われていった。少しのことでも体罰があり、「そうしなければならない」と信じる以外はなかった。

「『国』っていう何なのか？」この共通認識を築かなくてはいけないと思う。

台湾を攻めた時から始まるうその歴史は（アジア侵略の歴史）は、「隠し、ごまかし、押しつけ、脅かし、命を奪う」もの。私たちは「明治からの歴史観」によって偏見を植え付けられてきたのではないか。

台湾、日清戦争前後の朝鮮支配を「節」にして、嫌がる私たちの口に押し込んだものの正体は何か？
一番大きな役割を果たしたのが「教育」。それは、戦後も変わらないと感じる。

多くの人々の口から自然に出てくる「皇族の名前の呼び方」には違和感を持っている。
変わらないこの国が、隠し、ごまかしてきたひと続きの（100年以上の）歴史を見てほしい。

(次回へ続く)

満州国の地図_朝日新聞記事20080629



近代日本と朝鮮・韓国の略年表より抜粋

1868 (明治元) 年	戊辰戦争、徳川幕府滅亡
1875 (〃8) 年	江華島事件
1876 (〃9) 年	日朝修好条規調印
1894 (〃27) 年	2月、甲午農民戦争起こる 7月、日清戦争始まる
1895 (〃28) 年	4月、日清講和条約締結
1904 (〃37) 年	2月、日露戦争始まる
1905 (〃38) 年	9月、日露講和条約調印
1910 (〃43) 年	韓国併合
1919 (大正8) 年	三・一独立運動
1931 (昭和6) 年	満州事変
1932 (〃7) 年	上海事変
1937 (〃12) 年	日中前面戦争へ 「皇國臣民の誓詞」制定
1939 (〃14) 年	ノモンハン事件

出典：中塚明喜「これだけは知っておきたい日本と韓国・朝鮮の歴史」